

生きる目的や意義を感じがたい社会に育つ子どもには不可解な社会観、価値観、文化観が生み出され、人間の存在感の希薄化や物事の不確実性によって利己主義的人間が発生し、情緒不安定児が多くなっています。人生の基礎が育まれる少年期は「生きる力を育む」為の、よりよく生きるのに大切なこと、先人達の知恵や生活文化を中心とした体験活動が必要で、大人になるための体験学習＝伝統的教育＝といわれる、心と文化の遊びや生活体験を行い、学び、心身を培うことです。最も大切な体験活動は、物が足りない不足や不便など素朴な体験であり、これらが感動を呼び、一生涯忘れる事の出来ない思い出として残っていくものです。青少年教育施設の体験活動は、キャンプ、野外ゲーム、自然の擬人化等の欧米型野外レクリエーション中心の形や技術習得が主であり、学校教育は、ボランティア体験、自然体験、職業体験が主となっています。これらは単なる体験として楽しませる体験学習であり、社会性や人間性を豊かにし、「生きる力」の育成に最も重要な、生活体験や人間の思考力、防衛本能、生きる忍耐力等の向上を促す体験が少ないのです。

子どもたちに伝えるのは美しさです。

信州せいしゅん村より

